

資料 3

委員からのご意見とそれに対する事業者の対応等（審査会当日意見）

ご意見	対応等
A 委員	
<p>(1) 予測評価に用いられた演奏音サンプルの詳細な取得方法（スピーカ特性が入っているのか）を確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実験に使用した音源について再確認を取りましたところ、音源の件で訂正がありました。正確には、使用した音楽は葉加瀬太郎およびウルフルズの音源の原曲（CD 音）でした。 ・そのため、各楽器による特性などもすべて考慮された音源となっています。 ・報告書の当該箇所（p4-8、演奏音のパワーレベル等の設定における使用した音源の記載）には、CD 音源を使用した旨を記載します。
B 委員	
<p>(1) 資料 3 表 4－3 歓声騒音については、オクターブバンド別パワーレベルを表示するなど、計算に必要な音源の周波数特性を示してほしい。</p> <p>資料 3 表 4－4 演奏音についても、1 台あたりのオクターブバンド別パワーレベルを表示するなど、計算に必要な音源の周波数特性を示してほしい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・資料 3 表 4－3 の歓声騒音、表 4－4 の演奏音については、オクターブバンド別パワーレベルを表示します。
<p>(2) 別紙 2 ②のシミュレーションに使用した音源のオクターブバンド別の推定パワーレベルの単位表記が dBA で正しいか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・別紙 2 ①～③の音源の周波数特性については、フラットの特性でのパワーレベルに修正します。
<p>(3) 別紙 2 ③のスピーカーの指向性を考慮したパワーレベルの計算上での取り扱いについて明記してほしい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・演奏音のパワーレベルの設定については下記の手順で行っています。 <ol style="list-style-type: none"> ① 測定マイクはスピーカー指向性範囲内で測定し周波数特性と dBA 値を求める ② ①測定値より、まず音源が点音源と仮定して距離減衰式によりパワーレベルを計算。 ③ 実測はスピーカー指向エリア内であることから点音源と指向音源のサービスエリアの表面積対数比から求めた dB 値を②計算比より差し引き真のスピーカーパワーレベルを求めた ・騒音予測シミュレーションは上記パワーレベルを用いて、音響会社より提示されたスピーカーカバーエリアシミュレーション結果より読み取った指向性データを SoundPLAN に入力しました。 ・ラインアレイスピーカーの指向性技術は、水平方向には約 90 度の指向角を持ち、垂直方向にはほとんど広がらず、設定するカバーエリアに合わせて範囲を絞り込む事ができるというものです。これをそのまま

	<p>SoundPLAN でシミュレーションすることはできません。</p> <p>そのため SoundPLAN で可能な範囲で音源に指向性を持たせました。それが水平 90 度、垂直 45 度という指向性範囲です。</p> <p>この指向性範囲ですと、実際のラインアレイスピーカーを使用した場合よりも多くスタジアム外へ音が広がってしまうシミュレーションになりますが、安全側の設定であるので、この設定としました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 報告書の当該箇所（p4-3、②予測モデル）には、実際に使用する予定のスピーカーの特性を考慮し、スピーカー前面方向の上下 45°、左右 90° 程度が主な到達範囲となるような指向性を設定した旨を記載します。
C 委員	
<p>（１）モノレール臨時便を遅くまで出すより、イベント開始時間、終了時間を早めるほうがよいのではないか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 評価報告書においては、コンサートの終了時間について、最も遅い場合の想定で、検討を行っています。 ・ 現時点で、コンサートの終了時間を一律に早めることは、スタジアム側では考えておりません。 ・ しかし、ご指摘の通り、4 万人規模のコンサートの場合、モノレール乗車等に時間を要し、観客の帰宅に支障を及ぼす可能性もあることから、コンサート実施者に対しては、今回の検討結果等、参考となる資料を示し、来場者数想定等も考慮して、開始時間（終了時間）を早める、大阪等の主要駅へのシャトルバスを運行するなど、観客の帰宅手段を確保するよう、提案を行っていくようにします。 ・ また、スタジアム側でも、JR 茨木駅行の臨時バスへの誘導強化等の対策について検討します。

委員からのご意見とそれに対する事業者の対応等（後日提出意見）

ご意見	対応等
A 委員	
<p>（１）シミュレーションに使用された音源は、万博でのコンサートの折に録音された音源とのことでしたが、どこでどのような方法で録音されたのかを明記していただきますよう、お願いいたします。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実験に使用した音源について再確認を取りましたところ、音源の件で訂正がありました。正確には、使用した音楽は葉加瀬太郎およびウルフルズの音源の原曲（CD 音）でした。 ・そのため、各楽器による特性などもすべて考慮された音源となっています。 ・報告書の当該箇所（p4-8、演奏音のパワーレベル等の設定における使用した音源の記載）には、CD 音源を使用した旨を記載します。
B 委員	
<p>（１）各種音源の音響パワーの周波数特性と、スピーカーの指向性の取り扱いについて、詳細を評価書に明記してほしい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・演奏音のパワーレベルの設定については下記の手順で行っています。 <ol style="list-style-type: none"> ① 測定マイクはスピーカー指向性範囲内で測定し周波数特性と dBA 値を求める ② ①測定値より、まず音源が点音源と仮定して距離減衰式によりパワーレベルを計算。 ③ 実測はスピーカー指向エリア内であることから点音源と指向音源のサービスエリアの表面積対数比から求めた dB 値を②計算比より差し引き真のスピーカーパワーレベルを求めた ・騒音予測シミュレーションは上記パワーレベルを用いて、音響会社より提示されたスピーカーカバーエリアシミュレーション結果より読み取った指向性データを SoundPLAN に入力しました。 ・ラインアレイスピーカーの指向性技術は、水平方向には約 90 度の指向角を持ち、垂直方向にはほとんど広がらず、設定するカバーエリアに合わせて範囲を絞り込む事ができるというものです。これをそのまま SoundPLAN でシミュレーションすることはできません。 そのため SoundPLAN で可能な範囲で音源に指向性を持たせました。それが水平 90 度、垂直 45 度という指向性範囲です。 この指向性範囲ですと、実際のラインアレイスピーカーを使用した場合よりも多くスタジアム外へ音が広がってしまうシミュレーションになりますが、安全側の設定であるので、この設定としました。 ・報告書の当該箇所（p4-3、②予測モデル）

	<p>には、実際に使用する予定のスピーカーの特性を考慮し、スピーカー前面方向の上下 45°、左右 90° 程度が主な到達範囲となるような指向性を設定した旨を記載します。</p>
D 委員	
<p>(1) 環境影響評価の範囲に該当するか分かりませんが、交通処理に関する意見です。</p> <p>1-5 ページで、モノレールの想定人数を 24,000 人とされています。コンサートは比較的広範囲からの来訪が予想されますので、妥当かと思います。</p> <p>モノレールの輸送について、別-7 では 23 時 30 分頃までに乗車可能とありますが、実績 (別-8) を見ますと、最大で 30 分あたり 2,200 名 (西行) + 2,200 名 (東行) となっています。これから計算すると、24,000 人を輸送するには 2.7 時間程度必要ではないでしょうか。遠方からの来場者は、23 時 30 分に乗車しても家までは到達できません。また、さらに乗車までの時間が延びると混乱するのではないのでしょうか。</p> <p>したがって、①イベントの終了時刻を早める、②近隣の鉄道駅までのシャトルバスの増強などを行う、の検討が必要ではないのでしょうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・評価報告書においては、コンサートの終了時間について、最も遅い場合の想定で、検討を行っています。 ・現時点で、コンサートの終了時間を一律に早めることは、スタジアム側では考えておりません。 ・しかし、ご指摘の通り、4 万人規模のコンサートの場合、モノレール乗車等に時間を要し、観客の帰宅に支障を及ぼす可能性もあることから、コンサート実施者に対しては、今回の検討結果等、参考となる資料を示し、来場者数想定等も考慮して、開始時間 (終了時間) を早める、大阪等の主要駅へのシャトルバスを運行するなど、観客の帰宅手段を確保するように、提案を行っていくようにします。 ・また、スタジアム側でも、JR 茨木駅行の臨時バスへの誘導強化等の対策について検討します。
E 委員	
<p>(1) 資料 3”市立吹田サッカースタジアムにおけるコンサート開催検討に係る自主環境影響評価報告書 (案)” の 3-5(3) についてです。</p> <p>使用した施設の後片付け、掃除等において発生した廃棄物等は、はコンサート実施者で持ち帰り、スタジアムに残さないように処理する計画であるという文が書かれています。本当にコンサート実施者が持ち帰ったかどうかを確認する具体案はあるのでしょうか。もしあるならば、それを加えておいた方が良いと思います。</p> <p>(4) の悪臭については、廃棄物については廃棄物置き場で適切に管理すると書かれています。この場合の廃棄物は観客がゴミ箱に捨てたゴミ等というイメージでしょうか。(3) ではコンサート実施者が持ち帰ると書かれているにもかかわらず、(4) では廃棄物置き場で管理すると書かれており、ざっと読むと矛盾しているよう気がいたします。(3) についてもどのようにして発生して出てきた廃棄物かを挿入すればわかり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物処理の基本的な考え方は、以下のとおりです。 <ol style="list-style-type: none"> ① お客様から出たごみ (観客席等で発生したごみ) は、スタジアム側で処理。 ② コンサート実施者からでたごみ (ステージ・機材等の設置・撤去、清掃等で出た産廃・ごみ等) はコンサート実施者にて処理。 ・報告書の当該箇所 (p1-5 (2) 廃棄物等、p2-1 (2) 廃棄物等) には、「観客から発生した廃棄物以外」、「観客からの廃棄物」との表現を追加し、区分を明確にします。

<p>やすくなると思います。</p> <p>(3)廃棄物等の項目のところで、” 使用した施設の後片付け、清掃等において発生した廃棄物等” という表現がありますが、清掃等ということは、どこを清掃した時に発生した廃棄物かが具体的でないためにご質問させていただきました。</p> <p>つまり、客席に落ちていたゴミ等もコンサート実施者は持ち帰ることになるのかという疑問が残りました。おそらく、コンサートのセットを片づける際に発生した廃棄物というイメージで書かれたと思うのですが、いかがでしょうか。(4)悪臭の項目についても再び廃棄物という言葉がでてきます。この廃棄物というのは、おそらく客席から出てきた廃棄物ではないかと思います。したがって、廃棄物ということが(3)廃棄物等と(4)悪臭で出てきていますが、おそらく、内容は異なるものと思いますので、その違いを明確にされた方がわかりやすいかと思い、質問させていただきました。</p>	
<p>F 委員</p>	
<p>(1) D 委員のおっしゃる通り。実績でも、モノレール乗車が本格的に始まるのは 21 時 30 分。乗車想定人数 24,000 人は、それから最大人数が乗り続けて 2.7Hr かかる計算。23 時 30 分頃までに想定人数が乗車可能というのは、実績から見て難しいのではないのでしょうか。その後の交通手段のことを考えても、別途対策が必要と思われます。</p> <p>もちろん、コンサートの来場者が必ずこの人数に達するとは限らず、またそのうちどれぐらいの人数がモノレールを利用するかは、当日にならないとわからないかもしれない。例えば、当日来場時間帯のモノレール下車人数をカウントして、その人数によって帰りの臨時便の本数や時間帯を変更するような、柔軟な対応が可能かどうか、関係者で調整することを御検討下さい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・評価報告書においては、コンサートの終了時間について、最も遅い場合の想定で、検討を行っています。 ・ご指摘の通り、4 万人規模のコンサートの場合、モノレール乗車等に時間を要し、観客の帰宅に支障を及ぼす可能性もあることから、コンサート実施者に対しては、今回の検討結果等、参考となる資料を示し、来場者数想定等も考慮して、開始時間（終了時間）を早める、大阪等の主要駅へのシャトルバスを運行するなど、観客の帰宅手段を確保するよう、提案を行っていくようにします。 ・また、スタジアム側でも、JR 茨木駅行の臨時バスへの誘導強化等の対策について検討します。 ・なお、現状の試合開催日において、来場者数予測を元に臨時便の本数や時間帯を変更するなど、柔軟な対応を行っています。コンサート開催時においても、同様の対応を行います。